

読書推進運動

No.699

★「伊藤忠記念財団 子ども文庫助成事業」
助成贈呈先 決定(2・3頁)

定価 60円

会員の購読料は
会費の中に含まれる

公益社団法人
読書推進運動協議会

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル 6階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271

発行人 佐々木 泰
編集人 片岡 伸子



子ども時代の思い出より 本とふれあう場所と時間を 子どもたちに

公益社団法人 読書推進運動協議会 常務理事
株式会社文藝春秋 代表取締役

飯窪成幸

いづくぼまさゆき

読書の推進はむずかしい。自分の読書体験はなにに推進されたのだろう。子どものころをふりかえってもみる。

私は1959年生まれで、小学、中学、高校時代という60年代後半から70年代後半にかけてである。思えば出版大国・ニッポンの黄金期にあつた。現代との違いは、本や雑誌とのタッチポイントが圧倒的に多かったことだ。父親が本好きで本はほしいといえど買ってくれた。東京の下町に住む祖父のところにいくと、漫画と雑誌だけ置いてある数坪の小さな本屋さんで、漫画を好きだけ買ってもらえた。近所の床屋に行けばコミックがそろえてあり、『あしたのジョー』『巨人の星』も理髪店で出会ったはずだ。喫

茶店にもラーメン屋にも週刊誌やコミックが置いてあつた。父親は買った雑誌を家に持ち帰り、居間の机には『週刊文春』『週刊新潮』『文藝春秋』『オール读物』『小説新潮』ほか諸々の雑誌が置かれていた。雑誌によっては女性のヌードが掲載されるものもあつたが、子どもの情操教育など気にしない家庭だったのだろう。小学生のころから私は、おとなの週刊誌に親しんでいた。

中学生になるとバスで通学するようになり、ひとりですべての場所に通うようになった。あのころは本屋さんの中にもうひとつの人生があつたよ。うな気がする。駅前毎日入る店があり(この書店は今もあるはずだ)、中学生になると、植草甚一や小林信彦さん

などユニークな書籍を出版する晶文社の棚が気になって必ずチェックしていた。毎日見たつてそう様子が変わるはずもないのに、平野甲賀さん装丁の晶文社の本が並んだ棚を飽きることなく眺めていた。

ちょうどオイルショックのころ、文春文庫が創刊したのだが、あとで聞くと紙の手に苦勞したようで、せつかく新しい文庫ができたのに紙がちよつと貧乏くさいな、と中学生ながら思ったものだ(今はもちろん違います)。雑誌の時代でもあつた。メジャーな雑誌だけでなく、『話の特集』や『噂の真相』『面白半分』『宝島』など、いわゆるリトルマガジンがいくつもあつた。すべてを買って読めるわけもなく、これらの雑誌や漫画誌は駅から家までの

途中で新しくできた本屋さんで立ち読みしていた(こちらの書店は残念ながら閉店した)。わが身のつまらぬ読書体験を書いたのは、自分が読書好きになったのは幼少期に本や雑誌が身近にあつたこと、そしてもうひとつ、ありあまる時間があつたから、としか言いようがないからだ。書店が少なくなつた時代に、どうやって読者と本のタッチポイントを増やしていくか。読書推進運動のひとつの課題だろう。今の子どもたちは忙しい。仕事をもつ親が多いから、学校が終わるとそのまま「学童保育」に行く。この学童保育の間に少しでも本とふれる機会があればいいのだが……。

十数年ほど前に認知神経科学の専門家が書いて話題になつた『ブルーストとイカ』という書籍によれば、人間の脳は文字を読むことで、現在のように発達したという。とすると、私のように小学生のときからおとなの週刊誌を読むのは如何と思うが、子どもの脳は読書を求めているはずだ。

〈2025年度〉

伊藤忠記念財団

子ども文庫助成事業

助成贈呈先決定

公益社団法人読書推進運動協... 2025年度助成贈呈先が決定し... (計128件)。

本年度の総応募件数は187件。

この助成事業は、伊藤忠記念財団が子ども読書についての啓発、指導に関する民間の有益な活動の目的達成のために行つており、今年度で第51回、助成件数は3053件となりました。

伊藤忠記念財団では2026年度も同助成を実施します。応募期間は、4月〜6月の予定です。応募要項は3月、伊藤忠記念財団および読書推進運動協議会ホームページに掲載予定です。

なお、各道府県読書推進運動協議会、および各都道府県立中央図書館へは、当協議会の依頼状を同封したうえで伊藤忠記念財団よりお送りいたします。

◆子どもの本購入費 助成先一覧(60件)

児童書・絵本などの図書購入費用、紙芝居・人形劇など読書啓発活動につながる実演作品の購入費用として一律30万円を助成。半額の15万円までを読書啓発に関連する講演会・研修会の開催費や参加費、備品の購入(書籍管理備品、実演用備品など)に使用できます。また、同財団が指定する団体からの講師派遣研修参加に助成金の全額を使用できるプログラムもあります。

子どもたちの読書啓発を行つている民間の文庫や実演団体、連絡会などが対象。実質的に草の根運動と見なされる個人・団体であること、3年以上の活動歴があり、今後も継続した活動が見込まれることが必要です。

- 北海道 鉄子文庫
青森県 チーム袖つむぎ
宮城県 お話コックト
栃木県 おはなしポットの会
群馬県 かたぐるまぶんこ
埼玉県 自然とまちのライブラリー
千葉県 ゆか下文庫
東京都 大きなくりの木のしたで

東京都 絵本カフェほっと
神奈川県 いずみ文庫
神奈川県 ブックサークル
おはなしもり

石川県 くまっこ隊
福井県 子ども図書館
どらこんぶつくす

山梨県 ハルノナ文庫
山梨県 草葎敷子ども図書館
絵本くらぶ

長野県 ふるさとおはなしたいむ
岐阜県 NPO法人
絵本であそぼつ

静岡県(個人) 長岡洋子
静岡県 住吉小学校読み聞かせボランティアひだまり

愛知県 特定非営利活動法人
まちの縁側育くみ隊

愛知県 私設図書館もん
三重県 読み聞かせグループ
「みなみ風」

滋賀県 山中比叡平子ども図書館
滋賀県 びわこビブリオ道場
滋賀県 あかねいろ

京都府 あみの読み聞かせ
ボランティアの会

大阪府 えほん文庫
てんととムシムシ

大阪府 堂山おはなし会
大阪府 サンヴェール春日文庫

兵庫県 もめんや文庫
奈良県 カッキークラブ交流会



鉄子文庫(北海道)

奈良県 たかだおはなし
ろうそくの会

奈良県 ひなた文庫
和歌山県 和歌山紙芝居研究会

鳥取県 てくてくぶつくりんく
鳥根県 一般社団法人ダイバー

シテイうなん loiro
広島県 学びの未来こたま

山口県 絵本の読みあいグループ
香川県 子育て応援グループ

415のわ
愛媛県 いよ本プロジェクト
運営委員会

高知県 認定特定非営利活動法人
高知こどもの図書館

福岡県 とんとんぶんこ
福岡県 大宰府市子ども文庫・

読書サークル連絡協議会
福岡県 都府楼ゆめふうせん文庫

福岡県 みどり文庫

福岡県 お話の森文庫
福岡県 八女市立福島小学校読書
ボランティア
『ブックメイト』

佐賀県 すばなしの会
熊本県 NPO法人ガット

熊本県 一般社団法人
合志市読書活動推進協会

熊本県 子羊文庫
鹿児島県 一般財団法人

鹿児島県 浄土真宗本願寺派
法円寺 絵本堂

アメリカ アイオワシティ
補習授業校

アメリカ オーランド補習校
オーストラリア ユーカリ文庫

スペイン てらっこバルセロナ
Teracco Barcelona

中国 上海日本語補習クラブ
中国 上海ふあんふあん文庫

◆病院・施設子ども読書 活動費助成先一覧(7件)

図書購入費用および読書啓発活動につながる実演作品の購入費用として一律30万円を助成。障がいのある子どもたちに対する読書支援機器などの購入、バリアフリー図書作成のための費用も含まれます。また、助成額の半額15万円までを、講習会の開催費や参加費お

よび備品の購入に使用できません。購入費助成同様、3年以上の活動歴があり、今後も継続した活動が見込まれることが必要です。

東京都 特定非営利活動法人

ピープルデザイン研究所
りんごプロジェクト

東京都 特定非営利活動法人

わんぱくクラブ育成会

東京都 地方独立行政法人

東京都立病院機構

東京都立小児総合医療センター

福井県 社会福祉法人吉江学園

京都府 京大病院小児科

ボランティアグループ

ここにこトマト

和歌山県 社会福祉法人

いなほ福祉会

通園らっこ

鹿児島県 公益社団法人昭和会

いまきいれ子ども発達支援センター

東京都 山の本文庫

東京都 Nido

東京都 ねころ文庫

東京都 雑木林の中の

東京都 小さなこども図書館

東京都 やひこえほんの会

東京都 PM みんなの学校

東京都 ぶどう文庫榊井沢

東京都 松葉おはなし会

東京都 松葉図書ボランティア

活動費助成」と共通。活動歴は問いませんが、今後も継続した活動が見込まれることが必要です。希望する対象年齢向けセットのまま、または、対象年齢向けセット全400冊に2000年以降に出版された図書を中心に選ばれた200冊をあわせて600冊より100冊を選ぶことができます。

東京都 一般社団法人

洗練された田舎研究所

青森県 川への文庫

宮城県 特定非営利活動法人

秋田県 にこつと秋田

秋田県 よみきかせボランティア

秋田県 「虹の会」

埼玉県 学校法人ひまわり学園

埼玉県 絵本館ひまわりの丘

千葉県 Liberty Library

千葉県 家庭文庫おさんぼ

東京都 山の本文庫

東京都 Nido

東京都 ねころ文庫

東京都 雑木林の中の

東京都 小さなこども図書館

東京都 やひこえほんの会

東京都 PM みんなの学校

東京都 ぶどう文庫榊井沢

東京都 松葉おはなし会

東京都 松葉図書ボランティア

滋賀県 ひまわりおはなし会

大阪府 北大阪朝鮮初級学校

兵庫県 おはなしのポケット 高砂

奈良県 本とオモチャとオルゴール

島根県 古志原団地生活お助け隊

広島県 吉浦地区心豊かな

香川県 しうんまんまる広場

宮崎県 特定非営利活動法人

子どもを育て推進する会

沖縄県 スマイルベース

アメリカ いとまんみなみ

イギリス ことばのたね

イタリヤ 英国マンゴー文庫

フィレンツェ日本語補習授業校

宮崎県 特定非営利活動法人

香川県 しうんまんまる広場

宮崎県 特定非営利活動法人

沖縄県 スマイルベース

アメリカ いとまんみなみ

イギリス ことばのたね

イタリヤ 英国マンゴー文庫

フィレンツェ日本語補習授業校

宮崎県 特定非営利活動法人

香川県 しうんまんまる広場

宮崎県 特定非営利活動法人

沖縄県 スマイルベース

アメリカ いとまんみなみ

イギリス ことばのたね

イタリヤ 英国マンゴー文庫

フィレンツェ日本語補習授業校

宮崎県 特定非営利活動法人

香川県 しうんまんまる広場

宮崎県 特定非営利活動法人

沖縄県 スマイルベース

アメリカ いとまんみなみ

イギリス ことばのたね

イタリヤ 英国マンゴー文庫



◆子ども文庫功労賞

子どもの読書啓発活動に長年(20年以上)貢献されてきた個人を顕彰する賞です。1984年の第1回以来、昨年までに92名に贈

られています。

本年の受賞者は、「さくらんぼ文庫」の青木さち子さん(埼玉県熊谷市)、「篠栗おはなし会」の柳より子さん(福岡県糟屋郡篠栗町)の2名です。

◆特別支援学校図書支援助成一覧(32件)

すでに開校済みで、学校図書館運営などを通して読書啓発活動を行っている特別支援学校が対象です。学校図書館の蔵書購入、バリ

アフリー図書や読書支援器の購入・作成費として一律30万円を助成します。半額の15万円までを書架など備品購入に使用できます。

福島県 福島県立あたち支援学校

千葉県 千葉県立夷隅特別支援学校

東京都 東京都立矢口特別支援学校

東京都 杉並区立済美養護学校

東京都 東京都立久我山青光学園

東京都 東京都立青島特別支援学校

東京都 東京都立青山特別支援学校

東京都 東京都立八王子西特別支援学校

神奈川県 神奈川県立鎌倉支援学校

神奈川県 神奈川県立高津支援学校

神奈川県 神奈川県立平塚盲学校

山梨県 山梨県立ろう学校

長野県 長野県長野盲学校

岐阜県 岐阜県立大垣特別支援学校

静岡県 静岡県立伊豆の国特別支援学校

京都府 京都府立城陽支援学校

京都府 京都府立井手やまぶき支援学校

京都府 京都府立麗華学校

京都府 京都府立麗華学校

兵庫県 兵庫県立神戸聴覚特別支援学校

兵庫県 兵庫県立姫路聴覚特別支援学校

兵庫県 兵庫県立立花巻清風支援学校

秋田県 秋田県立秋田きらり支援学校

秋田県 秋田県立栗田支援学校

秋田県 秋田県立視覚支援学校

秋田県 秋田県立聴覚支援学校

秋田県 秋田県立大曲支援学校

秋田県 秋田県立横手支援学校

秋田県 秋田県立だて支援学校

福島県 福島県立だて支援学校

贈呈式は2月26日(木)に、東京都港区の伊藤忠商事東京本社ビルで開催される予定です。

■ 梓会出版文化賞ほか贈呈式

こだわりのテーマを扱う 出版社たちが受賞

専門書を中心とする出版社で構成する出版事業団体、一般社団法人 出版梓会は、年間を通して優れた書籍を発行している出版社を顕彰している。このたび両賞が決定し、第41回「梓会出版文化賞」と第22回「出版梓会・懇親会が1月

ブカルまで幅広いジャンルで「攻めている」株式会社 太田出版が、それぞれ選ばれた。

文化賞」の贈呈式・懇親会が1月21日(水)、東京都千代田区の一ツ橋如水会館で開催された。

また、新聞社学芸文化賞は、代表の金承福さんが韓国文学を日本に届けたいという情熱にあふれた出版を続け、韓国書籍専門店「チェッコリ」の運営も手がける株式会社 クオオンが、同特別賞には、ハンセン病関連など過酷な状況に置かれた人々に光をあてる出版活動をしてきた株式会社 皓星社がそれぞれ受賞した。



出版クラブビル・クラブライブラリー(東京都千代田区)で3月末まで受賞者紹介が展示されている

梓会出版文化賞には、「フェミニスト出版社」として一貫して社会的なテーマにチャレンジしてきた株式会社 エトセトラブックスが、同特別賞には、哲学書からサ

贈呈式で受賞各社の代表者が謝辞を述べたが、4社ともきわめて「エッジのきいた」出版活動を続けているだけに个性的で、エトセトラブックスの松尾亜紀子代表は「本をつくるのがフェミニズムの実践。そもそも出版は政治的なもので、私たちは差別や暴力に抗っていきたい」と述べていた。

続く懇親会の冒頭、選考委員・藤原辰史さんの「始皇帝の焚書坑儒もナチスの焚書も、歴史上の過去ことではない」とのスピーチも印象的だった。

■ 「絵本ワールド」2か所で開催

ひと足早い、クリスマス 沖縄・豊見城と東京・町田で開催

子どもの読書推進会議が後援する絵本ワールド事業が、2025年の年末にも2か所で行われた。「絵本ワールド in おきなわ

ンツが企画、実行された。絵本作家のゲストとしては、くすのきしげのりさんが、講演会「一人ひとりがみんなたいせつ」作品に託す願い」を、岡田千晶さんが、ワークショップ「色鉛筆で塗り絵」

2025」が、12月20日(土)、21日(日)の両日、沖縄県豊見城市のおきなわ工芸の杜において開催された。沖縄での絵本ワールド開催は9年ぶりとのこと、戦後80年クリスマス前に夢と希望を」がテーマとなった。

さらには地元沖縄の作家、しろませいゆうさんや、はせがわいさおさんの作品からの原画展、イベントとして、おはなし会や絵本たいそう、大道芸などもあり、2600人以上が来場する盛況ぶり、12月でもあたたかい南国の気候のもと、親子連れの歓声が響いていた。



販売コーナーでは親子で熱心に本を選ぶ姿が見られた(沖縄会場)

絵本ワールドの恒例である絵本の販売では、10社の児童書出版社が参加。クリスマス前のはなやいだムードのなかで、多くのコンテ

同じく12月21日(日)、東京都町田市では、町田パリオを会場に「絵本ワールド in まちだ2025」が開催された。こちらは町田市の書店、久美堂が実行委員会事務局となつている。一般向けの情報発信が約1か月前というスピード開催で、日曜日のみという条件ながら600人以上の来場者があった。



大盛況だった中垣ゆたかさんのサイン会(町田会場)

こちらも多くの出版社が参加し絵本の販売を行うとともに、子どもたちにとってお楽しみ会のコンテ

■IBBYオナーリスト掲載図書決定ほか

さまざまな角度から、子どもの本を 楽しむイベントを開催!

一般社団法人 日本国際児童図書評議会 (JBBY) は、国際児童図書評議会 (IBBY) が各年で発行する、児童書リスト「IBBYオナーリスト」の2026年版に掲載する図書を発表した。

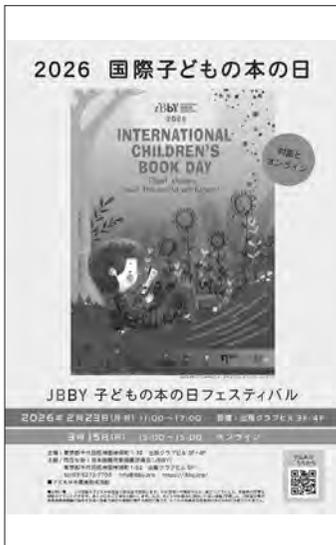
隔年で選定される「IBBYオナーリスト」は、世界各地のIBBY支部より推薦された「ほかの国でも読んでほしいすぐれた本」で構成されている。

また、JBBYは、4月2日の「国際子どもの本の日」を記念して、「JBBY子どもの本の日フェスティバル」を対面とオンラインで開催する。

2月23日(祝)は、東京都千代田区の出版クラブビルを会場に、絵本作家・作家・翻訳家・画家の体験ができるワークショップや、科学遊びのプログラムが予定されている。

『スクランブル交差点』佐藤まどか/作 小学館
『イラストレーション作品』
『ガマ千びき イワナ千びき』ザ・キャビンカンパニー/絵、最上平/作 文芸堂

『モノクロの街の夜明けに』野沢佳織/訳、ルータ・セベティス/作



「JBBY子どもの本の日フェスティバル」チラシイラスト部分は、IBBYキプロス支部が作成した、今年の「国際子どもの本の日」ポスター

る。講師は、岡田千晶さん(絵本作家)、岩瀬成子さん(作家)、シゲリカツヒコさん(画家・絵本作家)、館野鴻さん(画家・絵本作家)など。おもな対象は小学生。日本と世界の子どもの本を自由に読み、本さがしゲームや工作、リアフリー図書体験ができる。申し込み不要のプログラムも多数。また、JBBYが海外の賞へノミネートした作家・画家・翻訳者・出版社へ贈る「JBBY賞」授賞式も行われる。

3月15日(日)のオンラインプログラムは、「もっと知りたい!世界の不思議」ノンフィクション絵本ができるまで。講師は館野鴻さん、さくまゆみこさん(翻訳家)、北森芳徳さん(編集者)。対象は小学生から高校生。

ワークショップとオンラインプログラムの参加には、事前の申し込みが必要。参加費は無料だが、一部ワークショップは参加費(実費)が必要なものもある。プログラム内容、対象年齢、参加申し込み方法など詳細はJBBYホームページ (https://jbb-y.org/) 下記QRコードより確認できる。



■第29回 図書館を使った調べる学習コンクール

小学生から一般まで、 全国から多数の作品が集まる

公益財団法人図書館振興財団 (東京都文京区) が主催する、「第29回 図書館を使った調べる学習コンクール」は、2025年12月26日(金)、同財団で最終審査会を行い、2026年1月14日(水)、同財団のホームページ上で結果を発表した。

2025年9月8日~10月7日の募集期間に、前回は上回る合計12万7459作品の応募があり、入賞3団体、32作品、入選は、優良賞14作品、奨励賞282作品、佳作1423作品の結果だった。

読書推進運動協議会は12月4日(木)に事前の個人審査会にも出席。「調べる学習」部門の小学生の部(低学年)審査を担当した。このカテゴリーからは、文部科学大臣賞として、東京都足立区立江北小学校1年の弓田新さんによる「あおいやま!? どうしてふじ山はあおいの?」が選ばれた。

最終審査会の様子



さまざまなテーマの受賞作品



優良読書グループの歩み (2)

2025年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。
(順不同)

びじゅな

代表者 福田 桂子

栃木県塩谷郡塩谷町

〈推薦〉
栃木県読書推進運動協議会

びじゅなは栃木県塩谷町を拠点とするおはなし会ボランティアグループです。2011年4月より、主に町内の施設でおはなし会活動を行ってきました。

グループは4名で、大きくふたつの活動をしています。

まず、保育園・小学校でのおはなし会。町内各保育園へ年2回ずつ、各小学校へは年1回ずつめぐります。内容は絵本や紙芝居、人形劇など20〜30分ほど。人形劇は昔話やイソップ、グリム童話などを題材に、台本から人形・小道具まで自分たちで作ります。

もうひとつは町図書館活性化のための「おはなしひろば@しおや」です。地域の読書ボランティアに



おはなし会だけでなく、次年度のボランティア育成にも尽力

協力を呼びかけ、月1回おはなし会を開いています。内容は各ボランティアにおまかせし、私たちはチラシ作成やSNS投稿など運営担当です。

この活動で大切に行っているのが学生ボランティア育成です。中高生たちが、読み聞かせ講習を経て、受付や読み聞かせなど大人と一緒に活動します。学生たちで企画するイベントもあり、毎年多くの子どもたちでにぎわいます。これま

で携わった学生はのべ78名。活動をとおし、周りの人といきいきと

協働し、たくましくなっていく学生たちをたくさん見てきました。

さまざまな世代が集い、繋がることは、10年後の町づくりなのかもしれません。

図書館という場所で、本で繋がることで、子どもや学生たちの成長を見守り、背中を押すことができれば、なによりです。

びじゅなのおはなし会も、子どもたちの応援団でありたいという思いは同じです。選書やプログラム構成は、そのまま子どもたちへの想いをこめたメッセージです。それがちゃんと伝わるように、まずは子どもたちに信頼される大人でいなくてはなりません。

近年は個々の事情で4名そろっての活動がむずかしくなりました。また数年後には町内の小中学校が義務教育学校として統合されます。しかし私たちは少人数の柔軟さで、子どもたちに伴走する方法を模索し続けたいと思います。

4人で長く同じ方向を向いてやってきただけに、その絆はゆるぎないものとなりました。自分たちがこの活動を愉しむことも、子どもたちへの大切なメッセージかもしれません。

文章サロン

代表者 羽廣 嘉一

富山県射水市

〈推薦〉
富山県読書推進運動協議会

読書グループ「文章サロン」は、

2005年7月に、旧小杉町の町民図書館（現在の射水市中央図書館）における文化活動の中で、刀

根久さんを中心に、萩野恭一さんなど郷土の文学（小説・随筆など）創作活動に関心を持つ有志が集まって、それぞれの創作作品を持ち寄って、感想・意見を述べあう場として発足しました。そのため、当初は会員の創作を題材として読みあつて、意見交換などを行っていました。その後、郷土の作家（中央公論女流新人賞受賞作家・須山ユキエさんなど）を広く紹介するほか、一冊の本を取りあげ、感想・意見交換を行う読書会も続けていました。

その後、読書会では、広く日本文学なども対象とするようになりました。2017年から2019年にかけて、夏目漱石の小説を取りあげたとき、研究者（富山高専専門学校准教授・近藤周吾先生）

会員の創作、地元作家の作品も取りあげてきたのが特色



に来ていただき、作品の感想・意見を述べあうほか、作品の読み方などを教えていただき、作品世界の理解を深めることができたことが、印象深く思い出されます。

コロナ禍の前後以降は、会員（刀根久さんほか）の創作を取り上げるだけではなく、一般の図書館利用者の方にも気軽に自由に参加していただけるよう、取りあげる本の範囲を広くし、社会で興味を持たれ、広く読まれている作品などを選び、読書会を開催していくこととし、現在に至っています。

会員は現在8名で、例会には、初めての方の参加も歓迎しています。会員構成は、国・地方公務員経験者、会社経営・勤務経験者、

裁縫技術をお持ちの主婦など、男性5人、女性3人となっています。定例の会は、毎月第3土曜日の午後、射水市中央図書館の会議室で開催しています。毎月の課題本は、分野は、とくに限定せず、会員が最近興味を持った本をあげてもらい、逐次、富山県立図書館の読書会テキスト目録から選定し、貸し出していただいています。会の進行は、通常、最初に会員のひとりから、作者のこと、作品の時代背景、書評などの情報提供をいただき、司会の作品概要説明などがあつて、順次参加者が自由に感想を述べあう(随時、雑談も交え)かたちで進めています。最近、最後に、作品(特に文学作品の場合)のはじまりとおわりの部分を朗読して、作品のイメージを再確認して終わるようにしています。

ひわさおはなしクラブ

代表者 小山万寿美
徳島県海部郡美波町

〈推薦〉
徳島県読書振興協議会

今から25年ほど前、町外の図書館で開催された「とくしまお話を

語る会」の中洋子さんに依るおはなし会に参加したことがあります。このことこそが、私がこの活動を始めるきっかけになりました。

後日、再び中さんの講演を聞く機会に恵まれ、町内の子どもたちにおはなしや絵本の楽しさを伝え、それを共有したいとの思いがつのりました。そして、「とくしまお話を語る会」の勉強会に参加させていただきながら、当時娘の通っていた幼稚園で、おはなしや読み聞かせの活動を開始したので

娘が小学校に上がったころ、おはなしや絵本に興味があり、それが子どもたちにも大切なものだと感じてくださるお母さんたちが、共に活動に参加してくれるようになり、子どもたちが興味・関心を持つ読書環境づくりに努め、さまざまな本やおはなしに親しみ、楽しみを共有できる場所を提供し、子どもたちが読書習慣を身に着ける」ことを目的として、2001年「ひわさおはなしクラブ」を設立しました。現在、会員8名で運営しており、以前は町内外の学校に出向き、授業の1時限をいただき、おはなし会をしてきましたが、現在は地元小

学校での読み聞かせ(隔週)、図書館内のおはなし会(月1回)を中心として、小学校での夏休み課題図書紹介、その他町内施設での読み聞かせの開催、読み聞かせのほか小学校の要望に応じて国語授業と連携し、教科書掲載作品の朗読、解説なども行っています。

また定期的に研修会を開き、おはなしクラブとして参加者同士が新しい情報の入手や資質向上に努め、研修、意見交換などネットワークを広げることで地域の交流に繋がっています。

会員メンバーもそれぞれさまざまな事情で忙しく、活動をお休みしている方もいるため、活動の日



活動の柱のひとつ、小学校での読み聞かせ

程など調整するのに苦労することもあります。みんなが協力し助けあうことで活動が続けられています。

早いもので、グループを発足し、24年になりました。長く活動が続けられたのは、メンバーはもとより、小学校、図書館をはじめ、協力してくださるみなさまのおかげだと、たいへん感謝しております。そしてなにより、いつも楽しく聞いてくれる子どもたち、町で言えば「あ、絵本のおばちゃん」と声をかけてくれる子どもたちに、心から感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。そしてこれからも、できるだけ長くこの活動を続けていきたいと願っています。

『2023年度 全国読書グループ総覧』報告追加

1月7日付で埼玉県立久喜図書館より報告をいただいた2グループを下記のとおり追加します。これにより、埼玉県の読書グループ数は388、全国の読書グループ総数は1万1704となります。詳しい数字は後日、当協議会ホームページに掲載いたします。

グループ名	代表者名	主な活動場所	人数	発足年月	定例活動回数	特別活動回数(年)	活動内容
-------	------	--------	----	------	--------	-----------	------

埼玉県追加

○埼玉県立久喜図書館 (久喜市下早見 85-5)

●子どもの本グループ

トムの会	米田 佳子	埼玉県立久喜図書館	12	1980	週 1	50	実演 G
つくし	(代表者なし)	埼玉県立久喜図書館	17	1998	月 2		読書支援

■出版関係 新年名刺交換会

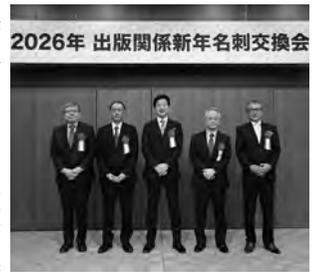
出版界の課題を共有しつつ、
新年の抱負・期待を交換

日本出版クラブは1月7日(水)、2026年 出版関係新年名刺交換会を開催、東京都千代田区の出版クラブビルに、出版社、取次会社、関係団体などから約370人の参加者があった。

会の冒頭、日本出版クラブの野間省伸会長(読書推進運動協議会会長)があいさつ。昨年のベストセラーをふり返るとともに、本年6月公布予定のいわゆる「トラッ

ク新法」など出版界にかかわる課題は多いが、解決に向けてみなさんと力をあわせて、チャレンジしていきたいと語り、乾杯を行った。

当日受付で配布された「出版クラブだより」には、日本書籍出版協会・小野寺優理事長、日本雑誌協会・宮原博昭理事長、日本出版取次協会・近藤敏賞会長、日本書店商業組合連合会・矢幡秀治会長の新年のあいさつが掲載され、そ



2026年 出版関係新年名刺交換会
会の冒頭、あいさつに
たった出版5団体の代表

れぞれの立場から出版界の課題についての認識と、今後の展望と施策を語った。

各団体代表をそろつての記念撮影の後、立食形式の懇親会が新年らしくはなやいだ雰囲気なかで行われた。

■第60回 新風賞

映画も話題の『国宝』が
受賞

各地域を代表する書店のネットワークである書店新風会主催の「第60回 新風賞」贈賞式が、会員書店および出版社など多数の関係者の参加のもと、1月7日(水)、東京都新宿区のハイアットトリージェンシー東京で行われた。

新風賞は、「この1年で書店店頭での活性化に貢献した作品」として、会員書店員の投票で選ばれる。今回は、吉田修一さんの『国宝』

(朝日新聞出版) が受賞した。『国宝』は、李相日監督、吉沢亮さん・横浜流星さん主演の映画も大ヒット中。作品そのものだけでなく、関連図書も注目を集めており、また、映画や俳優のファンが書店に足を運ぶきっかけにもなっている。

書店新風会の大塚茂会長より、朝日新聞出版の圓満亮社長へ、盾と副賞が贈られた。受賞後、あ

いさつに立つた圓満さんは、吉田修一さんのメッセージを代読し、書店と映画関係者への感謝を述べた。また、会社として30年ぶり5回目の受賞を喜び、「自信を持って送り出した良質な小説が、時代を象徴するような支持を集め、書店の売り場を盛りあげられたことは、このうえもない喜び。これからも書店を盛り上げるよい作品を、世の中に送り出していきたい」と、今後の抱負を語った。

なお、本年は特別賞は該当なしとなった。

事務局報告(1月)

- ☆5日 事務局仕事はじめ
- ☆7日 機関紙「読書推進運動」698号 入稿
- ☆7日 2026「こどもの読書週間」ポスターラフレイアウト案受領
- ☆7日 日本出版クラブ「新年名刺交換会」出席
- ☆8日 機関紙「読書推進運動」698号 責了
- ☆9日 2025年度 子どもの読書推進協議会 第2回幹事会開催
- ☆9日 2025年度 子どもの読書推進協議会 第2回総会案内発信
- ☆15日 機関紙「読書推進運動」698号 出来
- ☆20日 2025年度 第3回理事會案内 郵送
- ☆21日 第41回 梓会出版文化賞・第22回 出版協会新聞社芸文賞・贈呈式・懇親会 出席(如水会館)
- ☆23日「こどもの読書週間」後援依頼 文科省ほか計6団体に郵送
- ☆26日「こどもの読書週間」ポスターレイアウト案 受領
- ☆27日 2025年度 第4回 常務理事會
- ☆28日「2026 上野の森親子ブックフェスタ」運営委員会 出席



読書推進運動協議会
X (旧 Twitter)

●編集部&事務局の
ひとこと

●「お金もらっても、ほしいもの買えないし」と言うのは、4月に小学校6年生になる姪のRちゃん。自営業で、だいたい繁忙期のお父さん(私の弟)が、簡単な作業を手伝ってもらおうとお駄賃の提案をしたら、あっさり断られてしまいました。彼女がほしいものは、各地で品切れ、SNSで入荷情報が飛び交う、あの「ぶつくりしたシール」です。

●たかがシールにそこまで熱中するか?とも思いますが、話を聞くと、小学校高学年にして「お金があってもどうしようもない世界を知り、シール交換を通じて交渉術を磨き、友情が深まったり、ときには壊れたり……と、今後の人生にけっこう役立つ体験なのかもしれません。

●Rちゃんの祖父母世代(よりちょっと上?)の子どもたちの日常を描いた、佐藤さとるさんの「わんぱく天国」(講談社文庫)。めんこが流行れば、地元駄菓子屋がいつせいにめんこを並べたり、めんこ遊びで勝つために技や戦略を磨いたり、今のシールブームに少々重なる部分があります。三世代で読んだら、おもしろい感想が聞けそうです。

●なお、親子で仕事をしたい弟は、外回りのついでに、入荷情報があったお店に足を運んで、こっそりお駄賃用のシールを確保しています。ファミリーマーケットサイトで買った方が楽とは思いつつ、「転売はルール違反」とお金があればなんでもできると思われたら困る。「自分の労力を費やして手に入れた喜びを知ってほしい」とのことでした。(伸)